

携帯メーリングリストを含めた

緊急時連絡体制

藤 平 隆 宏

本会では平常時の連絡体制として、各班単位の回覧とFAXが大活躍しています。また、全員参加ではありませんが電子メールのメーリングリストを使用しています。緊急時の連絡体制としては理事と班長で構成される電話を使った救急災害時連絡網があります。ただ、昨年の日本や世界のできごとを見るだけでも何が起ころるやら分からぬ昨今です。大自然の猛威に比べ私たち人間はちっぽけなものかもしれません、考え得る備えにより少しでも被害を少なくできればというのには誰しもが考えることでしょう。

これまでの日本の大災害でも電気、ガス、水道とともに電話、携帯電話など社会のインフラストラクチャーのうち、どれが生き残っているのかは場所や状況により様々です。全滅ならどうしようもない訳ですが、何か残っている手段を有効に使えるように備えておきたいものです。各システムが災害時に使えるかどうかを考えてみましょう。

回覧は道路が正常で宅配便業者が無事でないとは機能せず、情報伝達完了までに時間がかかるのが欠点です。

FAXは200以上の医療機関へ電話2回線同時に送信できる機種を使用して送信していますが、1件1分としても全体では1時間40分以上かかる計算となります。電話回線と電気、発信元と受信先のFAX機が無事であることが条件となります。

固定電話は従来なら停電でも電話会社と電話回線が無事なら通じましたが、今は光ファイバー回線を用いたものを含め停電では使えない電話機が増えています。携帯電話は基地局が機能しているかが条件となります。本会の救急災害時連絡網は理事および班長までで班長から各班員への連絡は各班に任されています。

電子メールのメーリングリストは、各メールのプロバイダーが使えるかとメーリングリストの会社が無事かと受信するパソコンが使えるかとパソコンを操作できる状況にあるかが条件となりますが、配信は一度送れば後は機械が勝手にやってくれるので手間がかかりません。全員に配信されるまでの時間は通信が込み合うと遅延する可能性があります。

昨年、理事や事務局などに絞って携帯メーリングリストの試験運用を開始しました。携帯電話会社とその基地局とメーリングリストの会社が無事か、通信が安定しているか、携帯の電池が残っているかが条件となりますが、送信は手

間がかからず、携帯は機動性に富むため災害には適していると考えられます。試験送信をこれまでに2回行ないましたが、個々の携帯により操作が異なる、携帯会社による迷惑メール対策で受信しにくくなる、返信がメーリングリストの投稿となり全員に配信されるか発信者のみに送られるのかわかりにくいといった問題点が分かりました。

連絡網は固定電話や携帯電話の電話番号、パソコンや携帯電話の電子メールのアドレスといった個人情報や緊急時連絡網のメンバーが共有することに抵抗をお持ちの方もあられるようで、連絡網情報の保管や運用に注意が必要です。ただ、制限すればその分伝達しにくくなるため、バランスを取ることが必要です。今後も試験運用を重ねてノウハウを蓄積するとともに広く意見を集めたいと考えます。